

### 3 漁業実態調査

#### 1) 方法

今帰仁村漁協所属の漁民による調査海域でのシラヒゲウニ漁獲数を推定するために市場調査と漁協取扱量調査を行った。

1998年は6月16日～8月26日の間、1999年は6月3日～8月18日の間に、2週間に1度の頻度で市場調査を実施した。1998年のウニ漁期は6月中旬～9月初旬で、1999年は6月初旬～8月末であったのでほぼ漁期間中を通しての調査であった。市場調査では漁獲されたウニの生殖腺重量を求めめるために、出荷用パックに詰められた生殖腺の計数を行った。今帰仁漁協では、漁獲したウニは全て漁民が殻割りをし、取り出した生殖腺を100gのパック詰めにして今帰仁漁協で直売するか、同漁協を通じて名護漁協のセリに出荷している。したがって、調査は、今帰仁漁協での集荷時、あるいは名護漁協でのセリ前に実施した。集荷されたものの抜き取り調査で、パック内容量は平均103.1g(95.9～107.8g、標準偏差3.4g)であったので、今回の調査では表示通り1パック100gとした。各調査日には、時間の許す限り多くのパックの生殖腺数を計数した。1回の調査では、15～64パックの計数を行った。1個体当たりの生殖腺数は5葉なので、1個体当たりの生殖腺重量は下式により求めた。

$$GW = \frac{100}{GN} \times 5$$

GW：生殖腺重量

GN：1パックの生殖腺数

漁獲量データは、今帰仁漁協直販量と名護漁協取扱量を今帰仁漁協からの聞き取り調査および水産試験場漁獲統計から集計した。

#### 2) 結果と考察

1個体当たりの生殖腺重量を調査日毎の平均で見ると、1998年は6月16日～7月15日の間に11.5gから13.6g

に微増したが、それ以降微減し8月25日は12.4gであった。また1999年は6月3日～7月22日の間に13.3gから14.7gに微増し、その後減少し8月18日には11.7gとなった(図20)。両年ともに漁期を通して大きな変化がなかったため、全期間の平均値をその年の漁獲ウニの生殖腺重量とした。期間平均値は1998年が13.26g、1999年が13.55gであった。

今帰仁村漁協組合員のウニ出荷量は1998年が4,333パック、1999年が13,107パックであったので、先に求めた1個体当たりの生殖腺重量から計算すると、年間漁獲数は1998年が約33,000個、1999年が約97,000個と推定された(表10)。

また、1998年と1999年の生殖腺重量の平均値

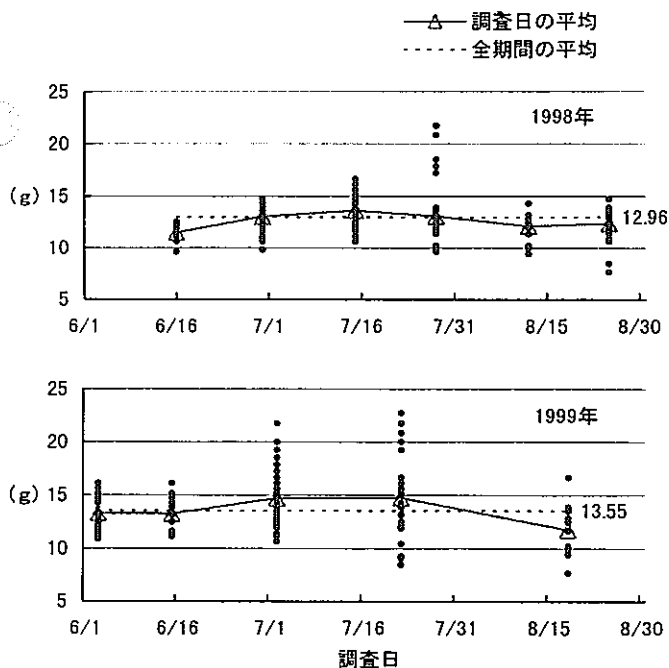


図20 漁期中のシラヒゲウニの生殖腺重量

表 10 今帰仁漁協のシラヒゲウニ推定漁獲数

年	漁獲量 (100gパック数)	推定漁獲個体数
1989	57,932	436,983
1990	77,858	587,286
1991	38,281	288,755
1992	53,913	406,668
1993	41,770	315,076
1994	49,129	370,582
1995	48,913	368,953
1996	20,653	155,786
1997	6,404	48,306
1998	4,333	33,422
1999	13,107	96,731

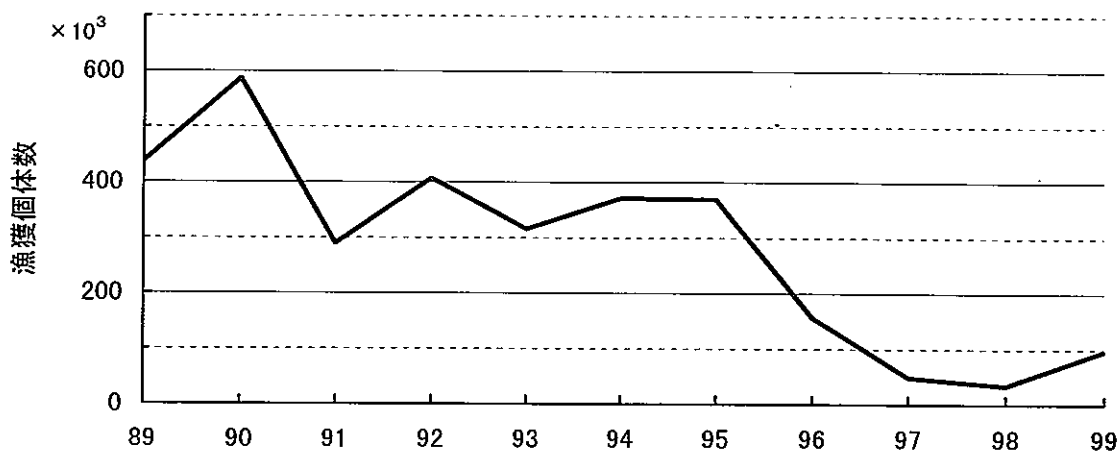


図 21 今帰仁漁協のシラヒゲウニ漁獲数の推移

を使用して1989年以降の統計資料から漁獲数を推定した。1990年には、約59万個体とこの11年間で最高の漁獲であった。その後1991～1995年までは32～41万個体と比較的安定していた。しかしそれ以降急減し、1997、98両年は3～5万個体と最高時の10分の1以下となった。1999年はやや増加して約10万個となっている（表10、図21）。